

さんむのふるさと散歩

NO.47

蓮沼殿下に大きな汐入の池のほとりの水荘に、昭和五年（一九四〇）から亡くなる昭和四〇年（一九六五）まで少女小説・童謡作家の北川千代が生活していました。千代が暮らしていた水荘は地元の網主である小川新兵衛氏が書齋として建築したものでした。

新兵衛氏は漁業経営のかたわら詩歌の実作に取り組み、



日本博覧図(千葉県立中央博物館蔵) 小川雄次郎邸(小川新兵衛長男)

与謝野鉄幹が主宰する東京新詩社の機関誌「明星」（一九〇〇年創刊）の有力同人でした。この関係により、鉄幹・晶子夫婦は新兵衛氏が書齋として建築した水荘を借り受けて、時々来遊し、散策を楽しんだそうです。その後水荘は与謝野寛（鉄幹）名義になっていました。

昭和一五年にこの水荘が売りに出されていることを新聞で知った千代は二五〇〇円で購入、以後世田谷弦巻と蓮沼を往復する生活になりました。北川千代が蓮沼に移住した経緯についてお話ししました。

次は北川千代の生い立ちをお話します。

明治二七年（一八九四）六月一四日、埼玉県大寄村（現深谷市）に生まれる。

明治三八年（一九〇五）東京の三輪田高等女学校に入学、病弱で三年で中途退学。

明治四四年（一九一〇）「少女世界」に応募した小説「友情」が入選し、作家を志す。



北川千代肖像(晩年)

大正四年（一九一五）プロレタリア作家江口 渙（小林多喜二葬儀委員を務める）と結婚、同一一年に離婚。

昭和七年（一九三二）に社会運動家（足尾銅山ストライキの指導者）高野松太郎と再婚、同一八年（一九四三）松太郎死去。

昭和四〇年（一九六五）十月一四日死去、告別式は東京・世田谷区の九品仏浄真寺開山堂でとりおこなわれ、葬儀委員長は市川房枝が務めた。

代表作は『世界同盟』『絹糸の草履』『山上の旗』『お母さん』等があります。



北川千代児童文学全集

翻訳では『ピーターパン』『家なき子』『みつばちマーヤの冒険』等があります。最後の翻訳は七〇才で『みつばちマーヤの冒険』でした。皆さんも一度は読んだ作品があるかもしれませんね。北川千代展はオンライン蓮沼で展示しています、是非一度見学してください。



北川千代愛用の眼鏡・筆記用具

問 歴史民俗資料館

☎ (82) 28442